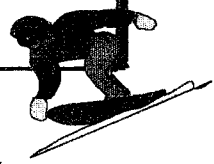


土浦平和の会

ニュースNO・55 1997年12月2

発行 土浦平和の会
 事務局 土浦市神立町2664-2
 TEL 31-9122



ヤンバルと珊瑚の海に海上基地はいらない

— '97年 日本平和大会に参加して — 理事 久保田栄吉

日米軍事同盟打破、基地撤去をメインスローガンに沖縄で開かれた大会に、茨城代表団の一員として参加しました。私にとって沖縄は初めてであり、数十年来の念願を達成することができました。日中戦争の渦中に生まれ、物心ついた時は戦争一色、そんな自分にとって平和を願う気持ちは誰にも負けないつもりで生きてきました。広島・長崎はもとより、全土が戦場と化した沖縄には一度訪れ、この目で、この身で確かめ見ておきたい。そんな思いがつのっていたとき、代表団に加えていただき、感謝しています。沖縄戦の悲惨さについては、知識としては持っていたつもりですが、戦跡を廻り、現地の人々の話を聞き、涙を止めることができませんでした。真っ暗なガマの中から、”山野”の中から、基地もいらない、戦争もいらない、叫びが聞こえてくるようでした。

第一日目は開会集会、第2日目は基地調査、「美しい海、ジュゴンの海」に海上基地はいらない。基地建設に反対する名護市民との交流集会、第3日目は分科会、閉会集会、第4日目は戦跡巡りという日程で行動しました。一日一日が有意義で、学ぶことがたくさんありましたが、その中でも基地調査、名護市民との交流では、深く胸に落ちるものがありました。行けども行けども基地、基地、狭い沖縄に広大な基地、基地国家の名がふさわしいような実態にただ唾然とするのみでした。基地の縮小ではなく、逆に基地機能の拡大強化、思いやり予算でさまざまな施設が更新され、移設縮小の名の下で老朽化した普天間の基地を、1兆円もの血税を使い、名護市民の反対を押し切って最新鋭の基地を作ろうとしています。耐用年数四十年以上、使い方によっては百年も使えるという化け物のような基地を、何のために造る必要があるのでしょうか。アメリカは二十一世紀にわたり、日本を支配して、戦争の道具、戦争の手先として日本を利用してゆく。こんな企みは絶対に許すことはできません。基地もいらない。核もいらない。この声を大きな流れにするため頑張るときだと思えます。普天間でだめなものなぜ名護なのか。沖縄でだめなものが本土ならいいのか。基地があって繁栄するなら沖縄が一番豊かになっているはずだ。札束で心は売らない。沖縄の、そして名護市民の叫びです。名護の市民投票は安保大改悪、新ガイドラインの出鼻をくじく大事な闘いです。なんとしても勝たなければなりません。大会では1万カ所の学習宣伝活動、六十年安保を上回るたたかいを組織して「二十一世紀に向けて、核もない、基地もない平和な日本、明るい未来を切り開こう」と誓い合って散会しました。私もこのたたかいの戦列の一員として頑張りたいと思います。 おわり

名護海上基地反対市民投票

を支援する物販に協力しよう

名護の町には賛成派の看板が立ち並び、運動員が戸別訪問をおこなって、反対運動の切り崩しをおこなっています。反対派の運動を支援するために下記の物資販売をおこないます。ご協力ください。

黒砂糖と名護の海の絵はがきセット1000円

日本各地で日米共同演習（11月中）

11月中、日本各地で自衛隊と米軍の共同演習が繰り返され、日本列島は日米共同の出撃要塞基地となりました。これが”新ガイドライン”の実践です。

陸では

関山演習場 日陸自・米海兵 各800人
 響庭野演習場 日陸自700人・米陸軍480人
 関西空港・高速道も自由に使って。
 空自と米空軍による物資投下訓練も。

海では

米空母インデペンデンスほか10隻、航空機120機
 兵員9千人参加。

海自艦船120隻、航空機180機、3万4千人

空では

三沢、秋田、小松沖の訓練空域で空自30機、米空
 80機。在韓米空軍も参加

行事ごよみ

- 12・6 県平和委常任理事会（水戸）
- 12・11 土浦平和の会忘年会（魚留）
- 12・13 梅原司平コンサート（亀城プラザ）
- 1・18 県平和委理事会（新年会を兼ねて）

